



○ 鮎鯨街道

ウォークで

九月二十五日は、またとない晴天に恵まれた。まさに、「鮎鯨街道ウォーク」日和。今年、イベントメンバーに加わった「道徳のまち笠松」のスタッフは、訪れる方々を温かく迎え、ふれあいを深めようと、休憩場所になる笠松町福祉会館前にテントを張った。展示コーナーを作り、オレンジ色ののぼり「道徳のまち」を立て、作品の展示、お茶と準備は慌ただしく進む。

細工（米野・岩井栄さん）の作品六十点あまりを展示。八十八歳のおばあちゃんを年頭に現役を退いた方々の作品である。自分の頭の中に描くイメージをどう表現するか独自に工夫し、制作されたものばかり。今回は、制作された黒田さんと伊藤さんにもスタッフに加わっていただき、質問に答えたり作り方を説明したりしてもらった。

○ わずかな時間で ふれあう

正午を過ぎた頃、ウォークの方々が到着される。次いで、家族やご夫婦などのグループも立ち寄られる。「お疲れさまです。お休みください」と、オレンジ色のＴシャツを着たスタッフがお茶を飲み、作品を見ていただく。わずかな時間ではあるが、町を訪れる方々のつながりは一気に広まっていく。



さまです。お休みください」と、オレンジ色のＴシャツを着たスタッフがお茶を飲み、作品を見ていただく。わずかな時間ではあるが、町を訪れる方々のつながりは一気に広まっていく。

○ 温かさと活力のエネルギーを！

コツコツと根気よく制作された作品は、心を引きつける。独学で取り組まれていることにも感心される。どうやって作るの？と関心も高い。作品を通して心が響き合い、ふれあいが深まる。

ゴールをめざす方には、「あと少しです。お気をつけて！」と言葉をかける。鮎鯨行列の本体が到着する頃、準備したお茶が足りない、紙コップが足りないとスタッフは大慌て。人とふれあうことで、オレンジ色のように心温かく、エネルギーや活力を感じる。立ち寄っていただいた方々はどうかであったらうか。

○ コーナーの作品
テント下のコーナーには、紙ひも細工（西町・黒田保男さん）、円空仏彫り（西町・伊藤清吾さん）、仏像などの木彫り（西町・岡田良春さん）、ちりめん



作品を前に話される黒田さん(上)伊藤さん(下)の方